

新型コロナウイルス感染防止対策の徹底について

国内の新型コロナウイルス感染症の新規感染者数は、過去最多を更新するなど、感染拡大が続いており、県内でも、10月下旬から複数のクラスターが発生するなど、新規感染者数が急激に増加している第3波の渦中で、感染流行期が「感染まん延期・前期」に移行しました。

本市におきましても、クラスターは発生していないものの、感染者が増加している状況であり、特に福祉施設や医療施設などにおいて、クラスターを発生させることの無いようにしていかなければなりません。

また、今後は、インフルエンザとの同時流行も懸念されることから、医療崩壊を招かないためにも感染防止の取り組みが非常に重要となっています。

市民の皆さまには、ご家族やご友人など大切な方々を新型コロナウイルス感染症から守るため、お一人おひとりが、感染防止対策を徹底していただくよう、引き続きご協力をお願いします。

また、このような状況では、いつ誰が罹患してもおかしくありません。感染された方への誹謗中傷やデマなどを厳に謹んでいただくようお願いいたします。

【新型コロナウイルス感染症の感染防止のための取り組み】

1 クラスターを発生させない感染防止対策を徹底してください

一人ひとりが、社会や医療を守るため、「外出時や会話時のマスクの着用」、「こまめな手洗いの徹底」、「人と人との距離の確保」、「適切な換気の実施」などあらゆる場面での感染防止対策をお願いします。

また、業種ごとの感染防止ガイドラインに沿った感染防止対策を徹底してください。

- (1) 福祉施設、医療施設などでは、施設外からウイルスを持ち込ませない、また、施設利用者の発熱やせきなどの「感染している可能性が高いサイン」を見逃さないなど、早期発見、早期対応により、クラスター発生を防ぐ取組を徹底してください。
- (2) 飲食業などでは、消毒の徹底、こまめな換気、飛沫感染予防のためのパーティションの設置や人と人との距離確保などを徹底してください。
- (3) 学校、事業所などでは、室内ではこまめな換気を、席や更衣室では、人との適切な距離の確保などを徹底してください。

2 県境を跨ぐ移動は、慎重に行動してください

県内警戒レベルは4、県内警戒、県外警戒です。北海道、東京、愛知、大阪、沖縄など、人口集中地域を中心に感染が拡大していますので、移動に際しては、訪問先の感染状況を確認の上、慎重な行動をお願いします。

3 感染リスクが高まる「5つの場面」を回避してください

年末年始に向け、酒席や人の移動には注意を徹底してください。年末年始は人の移動が集中し、「密」になりがちのため、帰省や旅行の分散に協力いただき、各企業におきましても、休暇の分散取得等への配慮をお願いいたします。

その上で、注意力低下や気の緩みにより、感染リスクが高まる「5つの場面」について特に御注意をお願いします。

4 会食時の感染リスクを減らす工夫をしてください

会食の際には、「飲酒は少人数・短時間で」、「席の配置は斜め向かいに」、「ガイドラインを遵守したお店で」など、感染リスクを減らす工夫をしてください。特に、政府からは、5人以上の飲食は大声になりがちとの見解が出ており、多人数の会食など感染リスクの高い行動を避けるようお願いします。

袋井市新型コロナウイルス感染症対策本部

取り入れよう

実践例（抜粋）

新しい生活様式

感染予防の3つの基本：①「身体的距離の確保」②「マスクの着用」③「手洗い」

①



人との間隔は、
できるだけ**2m**
(最低1m)

②



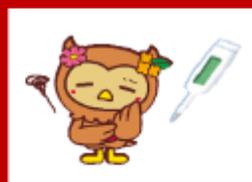
・症状がなくても
マスク着用
・状況に応じて、適宜
マスクを外しましょう

③



**手洗いは30秒程
度、水と石けんで
丁寧に**

【基本的生活様式①】



・**毎朝
体温測定、
健康チェック**

【基本的生活様式②】



・**こまめに換気**
※エアコン使用時は、
換気扇や窓を開けて

【買い物】



・レジに並ぶときは、
前後にスペース
・1人または少人数で
空いた時間に

【公共交通機関の利用】



・会話は控えめに
・混んでいる時間帯
は避ける

【娯楽・スポーツ等】



・公園は空いた時間、
場所を選ぶ
・ジョギングは少人数
・すれ違うときは距離
をとるマナー

【食事】



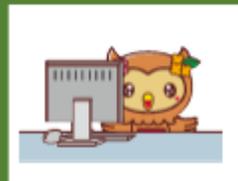
・持ち帰りやデリバ
リーを活用
・大皿を避け、料理
は個々に

【冠婚葬祭等の親族行事】



・多人数での会食を
避ける
・発熱・風邪症状がある
場合には参加しない

【働き方】



・会議はオンライン
・テレワークやロー
テーション勤務

「新しい生活様式」の実践例

（1）一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の3つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

- 人との間隔は、できるだけ2m（最低1m）空ける。
 - 会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。
 - 外出時や屋内でも会話をするとき、人との間隔が十分とれない場合は、症状がなくてもマスクを着用する。ただし、夏場は、熱中症に十分注意する。
 - 家に帰ったらまず手や顔を洗う。
人混みの多い場所に行った後は、できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
 - 手洗いは30秒程度かけて水と石けんで丁寧に洗う（手指消毒薬の使用も可）。
- ※ 高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

- 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。接触確認アプリの活用も。
- 地域の感染状況に注意する。

（2）日常生活を営む上での基本的生活様式

- まめに手洗い・手指消毒 咳エチケットの徹底
- こまめに換気（エアコン併用で室温を28℃以下に） 身体的距離の確保
- 「3密」の回避（密集、密接、密閉）
- 一人ひとりの健康状態に応じた運動や食事、禁煙等、適切な生活習慣の理解・実行
- 毎朝の体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養



（3）日常生活の各場面別の生活様式

買い物

- 通販も利用
- 1人または少人数ですいた時間に
- 電子決済の利用
- 計画をたてて素早く済ます
- サンプルなど展示品への接触は控えめに
- レジに並ぶときは、前後にスペース

公共交通機関の利用

- 会話は控えめに
- 混んでいる時間帯は避けて
- 徒歩や自転車利用も併用する

娯楽、スポーツ等

- 公園はすいた時間、場所を選ぶ
- 筋トレやヨガは、十分に人との間隔を
もしくは自宅で動画を活用
- ジョギングは少人数で
- すれ違うときは距離をとるマナー
- 予約制を利用してゆったりと
- 狭い部屋での長居は無用
- 歌や応援は、十分な距離かオンライン

食事

- 持ち帰りや出前、デリバリーも
- 屋外空間で気持ちよく
- 大皿は避けて、料理は個々に
- 対面ではなく横並びで座ろう
- 料理に集中、おしゃべりは控えめに
- お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて

イベント等への参加

- 接触確認アプリの活用を
- 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

（4）働き方の新しいスタイル

- テレワークやローテーション勤務 時差通勤でゆったりと オフィスはひろびろと
- 会議はオンライン 対面での打合せは換気とマスク

※ 業種ごとの感染拡大予防ガイドライン：<https://corona.go.jp/prevention/pdf/guideline.pdf>

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、長時間の食事によって、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、量カラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることがある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。

